

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・気温による影響が大きいと思うが、防寒衣料のバーゲン品がいつまで続くかにかかってくる。また、春物への切替えがうまくいけば、2月は雪まつりによる人出もあるので良くなる。
		商店街（代表者）	・観光入込が前年よりも良いことから、2～3か月先についても期待できる。
		スーパー（店長）	・5月にオープンした競合店の影響から9月までは低迷していたが、10月に入り、別の競合店が閉店したことにより、その店の客が流れてくるようになり、大きく売上を押し上げている。この傾向はまだ続く。
		コンビニ（エリア担当）	・大型工事需要が見込まれており、短期的には現場労働者による売上増加の気配が感じられる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が減少しているが、それ以上に客単価の増加が堅調である。ガソリンの値上がりにより、一度の来店で買物を済ませようとする傾向が強まっている。
		家電量販店（地区統括部長）	・パソコンの新OSウインドウズVISTA搭載の機種が発売に加えて、各メーカーの薄型テレビのラインアップも増えており、パソコンや薄型テレビの買換え需要が期待される。
		観光型ホテル（経営者）	・地元客の動きが良くなく、入込数については多くは望めないが、宿泊単価の高い、本州からのツアー客、海外客、インターネットによる予約客が安定している。ただし、宿泊単価の現状以上の大きな伸びは期待できない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・食べる、観る、体験、癒し、スポーツなどをテーマに観光宿泊施設の相互協力が出てきていることから、来道者数の減少に歯止めが掛かり、今後は増加してくることが期待できる。
変わらない		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月前半はある程度売上が良かったが、結果的に前年を下回った。売上が落ち込むのは2か月連続であり、これから繁忙期を迎えるが、現在の一進一退の状態が続く。
		スーパー（店長）	・節水型洗濯機、省エネ冷蔵庫などの高機能や環境配慮をうたった商品、有機野菜、100%ジュース、特定保健用食品などの健康商品は高価格にもかかわらず、堅調な動向を示している一方、ヒット商品に乏しいことから、全体としては変わらないまま推移する。
		スーパー（企画担当）	・地方の市町村は来客数、買上点数などに明るい兆しが出てきているものの、札幌圏は競争の激しさから価格低下の傾向が続いており、来客数、買上点数が伸び悩む店舗が散見されるなど、地域間の格差がみられる。
		家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送の開始を来年に控え、比較的売れていた液晶テレビの買い控え傾向が強まっている。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約状況を見ると、例年とほとんど変わらない動きをしている。また大きな変化を及ぼすようなイベントも見当たらないので、しばらくは平年ペースで推移する。
		その他レジャー施設（職員）	・月間の利用者数は安定しており、冬期間にこれ以上増える要因が考えにくい。
		美容室（経営者）	・必要なものしか購入しないという傾向が顕著になってきており、今後についてもあまり変動がないように感じられる。
		その他サービスの動向を把握できる者	・不需要期に入るため、特別な要因がない限り前年並みの水準で推移する。
		設計事務所（職員）	・北海道と比較されやすい九州でも地域格差が大きく、自動車や電器関連企業の生産施設のある地域が好調と聞く。これらの産業と縁が少なく、独自の好況産業を持たない北海道の景気回復は難しく、先行きについても厳しいまま変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・所得の減少という背景に加えて、リストラ等の雇用面での影響もあり、持家に対する意識はやや低下しており、今後もこの傾向が続く。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・景気が良いと言われているが、消費者には実感が無いというのが本音である。中小、零細企業の多い地方都市のサラリーマンは給料が下がったまま上がらず、ボーナスの支給もゼロないし減額との声も多い。灯油の高騰も影響が大きく、今後も生活防衛意識は強いまま変わらない。	

	コンビニ（エリア担当）	・各業者との取引条件の変更によって、勝ち負けが明確になってくる。大手スーパーの出店が地方を中心に止まらない一方で、地元スーパーの淘汰が進み、競争がより厳しくなる。	
	衣料品専門店（店長）	・これからの北海道は希望の持てる話題が少なく、暗い話題が多いので、今後も景気が良くなるとは考えられない。	
	乗用車販売店（従業員）	・客の購買意欲は低いまま変わらない。北海道は特に厳しく、売上単価も伸びてこない。	
	旅行代理店（従業員）	・国内旅行、海外旅行共に家族旅行の申込が前年よりも減少しており、回復の兆しがみえない。	
	旅行代理店（従業員）	・客の出控え、買い控えが更に進んでおり、先行きについても厳しい。	
	タクシー運転手	・札幌は、国土交通省からタクシーが供給過剰である特別監視地域に指定されたが、新規事業者や既存事業者の増車はまだまだ続いている。11月の個人タクシーの新規許可の試験でも前年より多くの人がかかっており、個人タクシーもまだ増えると聞いている。利用客が増えない状況で、タクシーの台数だけが増えており、供給過剰による過当競争がますます進む。	
	悪くなる		
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	家具製造業（経営者） 輸送業（経営者）	・企業業績の好調を背景にオフィスのリニューアルが進んでいる。また、マンション需要も拡大している。 ・これまで燃料が高値安定しているため収益を圧迫していたが、燃料が下がり気味となってきていることから、それが寄与して今後については良くなる。
変わらない	輸送業（営業担当） 金融業（企画担当） その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当） その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・原油の高騰も落ち着き、値下がりし始めていることから、若干ではあるが消費拡大傾向となる。	
		・企業収益は原油価格高騰に伴う原材料価格の高騰によって圧迫されている。観光関連は、豪州からのスキー客でセコがにぎわいをみせることが見込まれるが、個人消費は公務員の給与削減や灯油価格の高騰がマイナス要因となり、正月商戦などはさほど期待できない。総じて景気は横ばいで推移する。	
		・談合の摘発などにより、受注価格が一層低下する恐れがあり、そのしわ寄せが生じてくる。	
		・客先の受注見通しに明るさが見えず、停滞感が強い。受注単価の低下もみられ、景況感が好転するという兆しは感じられない。	
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（役員） 輸送業（支店長） 通信業（営業担当）	・夕張市のように多くの市町村の財政が極めて厳しくなっており、人件費の圧縮、公共料金の上げが生じてくる。 ・燃料価格の上昇が収益を圧迫している中、物流量が減少するこの時期に、一部業者の中にダンピング受注が出始めたことから、収益に悪影響が出る懸念される。 ・ここしばらく会社の業績や身の回りの景況感に、緩やかな拡大もしくは横ばいと感じる数値や印象があったが、業績数値の減少など、最近はそれらに陰りを感じるが増えてきた。	
	悪くなる		
	良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・2～3か月後には今年度の採用が終了しているが、今年度の欠員が来年度の採用に加わることで見込まれる。
雇用 関連	やや良くなる	-	
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・北海道文化遺産のばんえい競馬が、12月開催で廃止されることが決まっている。従事者約250名が失業することになり、先行き不安が広がってくる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大規模商業施設オープン予定なども少なく、求人が大幅に増加する要因はあまり見出せない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今年に入ってから、求人数に大きな変化はみられず、安定している。人手不足感はあるが、景気上昇によるものではなく、労働市場でのミスマッチが原因であるとみられる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の増加傾向は止まり、毎月の増減がみられる状況となっているが、新規求職者数は前年から毎月平均して2%台での減少が続いている。
職業安定所（職員）	・新規求人数の減少幅が小さくなってきている。		

やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・年末年始商戦が終わると、サービス業も含めて企業活動は停滞することが見込まれる。それに伴い販売関係の人材ニーズが減少し、商品が動かなくなるため、倉庫業などでのパート・アルバイト需要も停滞する。飲食店においては増員はないものの、人材の入れ替わり需要が継続すると見込まれる。
悪くなる	-	-